

ところで...  
HUGってなあに？

HUGとは、避難所運営を皆で考えるための教材の一つとして、平成19年に静岡県が開発した教材です。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。  
名前の由来は、H (hinanzo避難所)、U (unei運営)、G (gameゲーム) の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。  
避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けました。

「ハグ」と読みます

厚真町版

# HUG が できました！

避難所 運営 ゲーム



読み上げ係

どの部屋を  
使おうかな？

大集会室はまだ余裕が  
ありますよ。



実際に町内にある避難所の  
図面を使用します



なるほど！

こちらのグループは  
自治会ごとに部屋を  
分けたんだ...

## HUGの進め方

HUGカードは2種類あります。

●避難者カード  
避難者の状況（家族構成、被害状況、持病やペットの有無など）が書かれています。

●イベントカード  
避難所で発生する意思決定を伴う出来事が書かれています。（物資の置き場所を確保してください、テレビ局のインタビューをお願いしますなど）

①読み上げ係がカードに書かれている内容を読み上げます。



②ほかのプレイヤーは、カードを避難所に見立てた平面図に配置したり、物事を判断していきます。避難者へのお知らせの貼り出しや対応策を平面図に記入していきます。



③全てのカードが配置されたら、振り返りを行ったり、他のグループとの違いを検討します。

いつ・どこで発生するかわからない災害を完全に防ぐことはできません。もし、大災害が発生し、避難所を開設することになったら、どのように対応すれば良いでしょうか。

このような事態を模擬体験できる静岡県が作成したHUGというカードゲームがあります。平成26年度に町で実施した町民防災講座の中でHUGを実施しました。参加者から厚真町の実情に合わせたHUGを作成すれば、より現実味のある避難所運営を模擬体験することができるとは思いませんでした。

そこで町では、このHUGをより身近なものとするため、町防災アドバイザーの定池祐季さんをはじめ、町在りの北海道地域防災マスターや観光支援員、学校の先生など10人からなるHUG検討会を開催しました。HUG検討会は昨年7月から毎月1回のペースで全8回開催し、静岡県のHUGを基に、厚真町で実際に起こり得る災害（地震）、使用する図面、カードの内容、デザイン等について検討を重ね、厚真町の実情に合わせたオリジナルの「厚真町版HUG」が完成しました。

HUGの実践により、いざ大災害が発生したときに備えることができるでしょう。また、1人ひとりが災害を「自分ごと」として捉え、日ごろからできる防災対策や災害時に助けが必要な地域のお年寄りなどの要援護者の存在に気付く、きっかけづくりとして活用していきます。



HUG検討会の様子



完成したHUGの実施

## 厚真町版HUGの特徴

- 実際に起こり得る災害(直下型地震)を想定
- 厚真町の実情に合わせたカード内容(家族構成、車での避難、サーファーの帰宅困難など)
- 家族構成がわかりやすいデザイン
- 町の指定避難所の図面を使用
- 避難者カードの名前が全て厚真町関連である(旧地名、特産品など)
- 避難者カードに車カードとペットカードを追加



完成した厚真町版HUG

## 今後の予定について

町内の北海道地域防災マスターや自治会、各種研修会など幅広く活用していきます。ご興味のある方は下記までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先 総務課 研修防災グループ ☎ 27-2322